

令和6年度入学を
お考えの皆さんへ

力量ある教員を育む大学院

豊かな人間性・社会性を備えた

高度な専門性と



国立大学法人

岩手大学
IWATE UNIVERSITY

令和5年度

岩手大学教職大学院

大学院教育学研究科

教職実践専攻（専門職学位課程）



2023

スクールリーダーと 即戦力の新人教員を養成します

岩手大学大学院教育学研究科長 田代 高章

岩手大学大学院教育学研究科(教職大学院)は平成28年4月に発足し、令和5年3月には6期生17名が修了しました。この間の修了生はおよそ100名となり、修了生は、本学における理論と実践の融合(往還)を通して修得した力量を発揮し、各学校および教育行政の最前線で活躍しています。

本学教職大学院の現職院生は、岩手県教育委員会から派遣され、2年間の大学院での学びを経て、修了後は管理職等や指導主事として本県教育を牽引するスクールリーダーとなることが期待されています。また、学卒院生は修了後、新しい学校づくりの有力な担い手となる、より高度な実践的指導力を備えた新人教員として活躍することが期待されています。

その実現に向けて、専攻共通科目を中心とする学修カリキュラムのほか、「専門実習」と「教育実践リフレクション」をカリキュラムに位置づけ、学校現場の課題解決に資する実践的なフィールドでの研究を行っているのが大きな特色です。

研究スペースである院生室は、各自に専用机が配置され、学年や校種を超え、現職院生・学卒院生ともに、大学院の授業や専門実習および個人研究を補完する学び合いやOJTの場ともなっています。さらに、学卒院生に対する独自の奨学金貸与制度も完備しています。

本学教職大学院は、岩手県教育委員会および盛岡市内を中心とする各学校等との連携・協力の下に、これからの学校教育の充実・発展に大きく貢献できる力量の高い教員の育成に努めています。

専門的・実践的力量を備えた 教員養成を

岩手県教育委員会教育長 佐藤 一男

今年度、県教育委員会から岩手大学教職大学院への派遣研修は8年目を迎えます。令和4年度の修了生(第6期生)17名を含め、これまでに100名以上の皆さんがそれぞれの勤務地において、学修の成果を大いに発揮しています。

第6期生の現職教員の皆さんは、副校長や主幹教諭等として、この4月から新たなスタートを切って活躍しています。学卒院生の皆さんも、連携協力校を始めとする小中学校や県立学

校等において、2年間の専門的な学びを生かし、意欲的に実践しています。

県教育委員会では、教員等育成指標を改訂し、新たな研修体系に基づく研修計画を策定し、「学び続ける教師」として教員が主体的に自らの資質向上を図っていくことのできる研修制度を構築しました。このような中、教職大学院における中核的な理念でもある「理論と実践の往還」による研究は、今後ますます重要性を増し、岩手の教育の充実に結びついていくものと確信しています。

県教育委員会としても、高度な専門的・実践的力量を備えた教員の養成及び学校や地域の中核的・指導的な役割を果たすことができる管理職やミドルリーダー教員の資質能力の向上を図るため、引き続き、多様な人材の派遣に努めるとともに、実務家教員の人事交流や、専門実習等学修環境のサポートなど、教職大学院との一層の連携・協働を図って参ります。



道徳教育の授業



宮古教育事務所管内での実習



総合教育センターでの実習

教職大学院とは？

本学では「教育学研究科教職実践専攻」が教職大学院です。

教職大学院は、近年、学校教育の課題が多様化、複雑化する状況の中で、高い専門性と実践力を身に付けた高度専門職業人としての教員養成に特化した専門職大学院です。これまでの教育系大学院(修士課程)との違いは、専門実習、模擬授業、事例研究など実践的な教育内容が充実し、理論と実践を融合したカリキュラムとなっているところです。

- 教育学研究科(教職実践専攻)の入学定員等
入学定員 16名(うち、岩手県教育委員会から派遣される現職教員は8名)
- 学位名称、標準修了年限等
標準修了年限は2年で、修了者には教職修士(専門職)の学位が授与されます。また、教育職員一種免許状の保持者には専修免許状が授与されます。

人材養成像

学校教育に関する「理論と実践の融合」の理想を掲げて、教職としての高度な専門的・実践的力量を備えた高度専門職業人としての教員を養成します。

具体的には、学校教育をリードする専門的力量を備えた管理職及びミドルリーダー教員を養成するとともに、新しい学校づくりの有力な担い手となる新人教員を養成します。



学校マネジメント力開発プログラム

現職院生 円井 哲志



教職大学院で学んだ理論を踏まえて、これまでの教育活動を省察すると、自分の教育実践への新たな価値付けや改善点、アイデアが思い浮かび、「実践したい!」という気持ちが漲ります。また、経験豊富な大学の先生方、他校種の現職院生や学卒院生との対話を通じて、物事に対する自分の見方・考え方が鍛えられているのを実感しています。このような機会を頂いたことに感謝し、学修を岩手の教育に還元するため、引き続き研究と修養に励みます。

子ども支援力開発プログラム

現職院生 千葉 孝成



これまでの実践を振り返り、効果的だと感じた取組は、経験と感覚で実践してきたものでした。大学院で理論を学ぶことは、ポイントを整理し、現場に還元するための根拠を生み出すことにつながっていると思います。また、世代や校種の異なる仲間と対話することで、より一層子どもの成長過程を見通した支援を考えるようになりました。今後子どもが未来を生きるために必要なことを学び続けていきたいと思っています。

授業力開発プログラム

現職院生 渡邊 圭美



理想の職員室。それが教職大学院です。様々な校種の現職院生とエネルギーあふれる学卒院生が対話を重ねることで視野を広げ、互いを高め合っています。経験豊かな実務家教員や確かな理論をつくりだす研究者教員から投げかけられる問いは、実に多種多様で難問ばかりです。一人では解決できないことも仲間と協働しながら互いの考え方に触れることで、自分の思考を再構築し、成長し合っています。今後も様々な出会いに感謝しながら岩手の子どものために学び続けます。

授業力開発プログラム

現職院生 鈴木 直樹



4月7日の入学式は雨模様。門出なのに残念という見方もありますが、満開の桜を見ながら入学を迎えられた珍しい年でもあります。一つの事柄も視点や視野が違えば見える景色が違うということが、本院で得た学びです。「ICTの活用」、「いわての人材育成」等教育に対する多様な期待や課題に対して、校種や年代を越えて協議することで、視点の広がりと最適解を見つける姿勢が身につきました。本院での学びの効果的な還元方法を模索していきます。

授業力開発プログラム

学卒院生 登坂 皐月



教職大学院は学卒院生、現職院生、教授陣、連携協力校の先生方といった異なる立場の人と関わり、その見方を知ることができる貴重な環境です。講義での理論の蓄積やゼミでの教科専門的な知識の蓄積、連携協力校での経験の積み重ねを通して、曖昧だった知識が具体化されていく1年を経験しました。2年目は教師として大事にしたいことの軸を定め、授業実践と子どもとのかかわり、それらの省察を重ねることで教師としての力量を高めていきたいと考えます。

授業力開発プログラム

学卒院生 関 要



入学当時は学部時代と大きく異なる学びの環境に不安を感じたり戸惑ったりすることもありました。しかし、高い志をもって努力し続ける同じ学卒院生や経験豊富で様々な視点から気づきを与えてくれる現職院生に刺激を受けたり、時には支えてもらったりしながら多くの学びを得て1年間を無事に終えられたと思います。今年度は自身の研究をより深く、研究から得られた成果や経験をこれからの教職人生の軸とすることができるよう努力を継続していきたいと思っています。

特別支援教育力開発プログラム

現職院生 馬場 識子



特別支援学校以外の校種の院生と共に学ぶことで、特別支援教育について自分が経験に頼っていたこと、わかっていると思いついていたことに気づき、教職大学院での学びが、新たな視点でインクルーシブ教育システムを捉え直す機会になりました。多様性と包摂性のある社会の実現に向け、「いわて県民計画」、「岩手県教育振興計画」との関連を考え、いわて特別支援教育推進プラン「共に学び、共に育つ教育」の理念のもと、すべての子どもが自己実現できる教育を目指します。

特別支援教育力開発プログラム

学卒院生 小林美奈子



この1年は、自分の指導や支援が本当に子どものためとなっているのか、振り返りに次はどう活かすべきなのかについて深く考えることができました。教職大学院の講義での学びや、実際の現場を知っている現職の先生方との交流を通し、自分の指導や支援について多様な視点から振り返り、次への活かし方を考えられるようになりました。残りの1年間を活用し、学んだことをより実践の中で活かすことができるように努めていきたいと思っています。

カリキュラムについて

3つのプログラム制 学修ニーズに応じて以下のプログラムを選択します。

<h3>1 学校マネジメント力開発プログラム</h3> <p>(現職院生のみ対象)</p>	学校経営と組織マネジメントに関する高度な専門的力量的修得により、特色ある学校づくりをリードする人材(校長、副校長、主幹教諭及び指導主事等)を育成する。
<h3>2 授業力開発プログラム</h3> <p>(令和6年度から子ども支援力開発プログラムを統合)</p>	子どもの生活上・発達上の諸課題の把握とその適切な支援の見通しのもとに、子どもに確かな学力を形成し、地域における授業改善のリーダーとしての役割を果たすことができる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。
<h3>3 特別支援教育力開発プログラム</h3>	特別支援学校及び通常学校における特別支援教育を推進できる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。

専攻共通科目(必修)

- ① 特色あるカリキュラムづくりの理論と実際
- ② 学習指導要領とカリキュラム開発
- ③ ICT活用教育の実践と課題
- ④ 学校経営・学級経営の実践と課題
- ⑤ 心理教育的援助サービスの理論と実践
- ⑥ 通常学級における特別支援教育の実践と課題
- ⑦ いわての復興教育の実践と課題
- ⑧ 専門職としての教員の在り方とその力量形成
- ⑨ 授業づくりの理論と実践
- ⑩ 教科の指導と評価の実践研究

選択科目

- ① 学校トラブル処理の実践演習
 - ② 学校評価の取組と学校改善の実践演習
 - ③ 特別活動の実践演習
 - ④ 小規模教育の実践と課題
 - ⑤ 総合学習の実践と課題
 - ⑥ 子ども支援のための学校臨床心理学
 - ⑦ 発達援助の理論と実践
 - ⑧ 学校カウンセリングの技法
 - ⑨ 特別支援心理教育アセスメント
 - ⑩ 特別支援教育におけるキャリア教育
- など全32科目

実習科目(必修)

学卒院生は、学部段階の基礎的・基本的な教育実習を踏まえ、現職院生は、教職経験を踏まえ、教科等の学習指導、生徒指導や学級・学校経営に関する高度で実践的な指導力の育成を目的とします。連携協力校、教育委員会、総合教育センター等で実施します。

リフレクション科目(必修)

理論的な学びと、実践的な学びを往還し、院生が自らの学びや成長に価値を見出す省察を行い、教育課題の解決に資する実践的力量的を高めます。

実践研究科目(必修)

院生個人が、学校現場に貢献しうる教育実践のテーマを定め、その実践を理論的に検討し、教育実践研究報告書としてまとめます。なお、この成果は、半期ごとの教育実践研究中間発表会、修了前の発表会等で発表します。

履修スケジュール

(令和6年度から新カリキュラムでの学修を提供します。ここで示している時間割や履修スケジュール等の詳細については、変更調整されることがあります。)

		1 年 次											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学卒院生の場合	専攻共通科目												
	プログラム別選択科目												
	授業力開発実習 (計160H)※附属学校												
	*特別支援教育力開発実習I (4W)※附属学校												
教育実践リフレクションI													
教育実践研究													
現職院生の場合	専攻共通科目												
	プログラム別選択科目												
	学校マネジメント力または 授業力開発実習 (計80H)※公立連携校												
	学校マネジメント力または 授業力開発実習(計40H) ※県教委及び総合 教育センター等												
*特別支援 教育力開発実習I (2W) ※附属学校													
教育実践リフレクションI													
教育実践研究													
専攻共通科目													
プログラム別選択科目													
学校マネジメント力または 授業力開発実習 (計60H)※附属学校で実施													
教育実践リフレクションII													
教育実践研究													
教育実践 研究 中間発表会													

* 特別支援教育力開発実習 I・II は特別支援教育力開発プログラムを選択した院生が履修します。



時間割例(授業力開発プログラム選択・学卒院生の場合)

専攻共通科目 選択科目 実習科目 リフレクション科目 実践研究科目

[1年次前期] 学修導入期・研究課題設定期

曜日	1	2	3	4
月		授業づくりの理論と実践	特色あるカリキュラムづくりの理論と実際	教育実践研究基礎論
火	専門職としての教員の在り方とその力量形成	学校カウンセリングの理論と実践		
水	いわての復興教育の実践と課題	教科の指導と評価の実践研究		心理教育的援助サービスの理論と実践
木	専門実習(授業力開発実習)			
金	教育実践リフレクションI		教育実践研究	木曜日は配属校で学びます。

[1年次後期] 学修展開期・研究課題探究期

曜日	1	2	3	4
月	通常学級における特別支援教育の実践と課題	ICT活用教育の実践と課題		
火	学習指導要領とカリキュラム開発			
水	学校経営・学級経営の実践と課題	英語科教育の実践と課題		
木	専門実習(授業力開発実習)			
金	教育実践リフレクションII		教育実践研究	

[2年次前期] 学修深化期・研究課題深化期

曜日	1	2	3	4
月			学校マネジメントの理論と実践	
火	理論と実践の往還・融合による研究課題の解決策の検証と深化を図っていきます。			
水				
木	専門実習(授業力開発実習)			
金		教育実践リフレクションIII	教育実践研究	

[2年次後期] 学修完結期・研究課題総括期

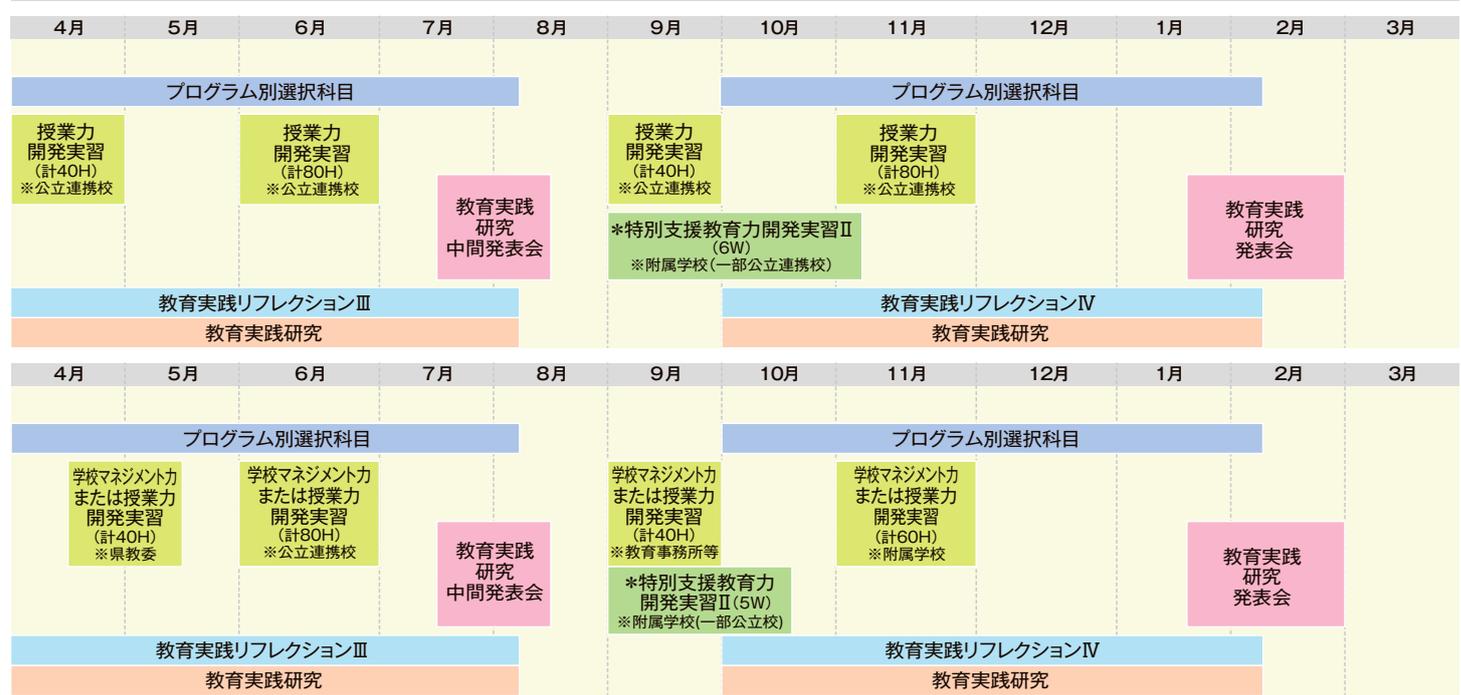
曜日	1	2	3	4
月				
火				
水			体育・保健体育科教育の実践と課題	
木	専門実習(授業力開発実習)			
金		教育実践リフレクションIV	教育実践研究	

研究課題のまとめを行い、「教育実践研究報告書」を作成します。

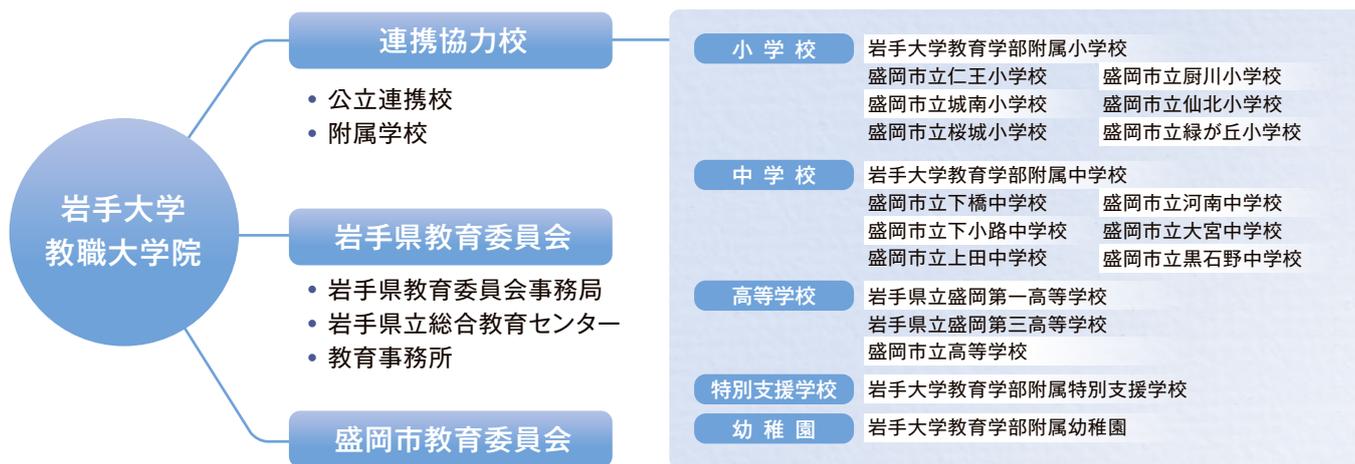
岩手大学教職大学院 修了要件単位表	専攻共通科目 (必修)	選択科目	実習科目 (必修)	リフレクション科目 (必修)	実践研究科目 (必修)	計
	20	8	10	4	4	46



2年次



>> 専門実習について



Q 学校マネジメント力開発実習では、 どんなことをするの？

A 学校経営や教育行政にかかわる実際的な業務内容を実習します。学卒院生は、連携協力校での校務分掌を実習内容に含みます。現職院生は、教育委員会や教育センターでの事務局業務や研修の運営業務などを実習内容に含みます。



Q 特別支援教育力開発実習では、 どんなことをするの？



A 特別支援学校における授業づくりはもちろんのこと、教科指導以外の教育活動、通常学級への巡回相談等を実習します。その中で、具体的かつ有効な支援方法を開発、検証します。

Q 授業力(子ども支援力を含む)開発実習では、 どんなことをするの？

A 授業づくりを実習します。単元計画の立案、実践、評価を行う中で、子どもの生活上・発達上の実態に配慮しつつ、有効な指導方法を開発、検証します。



また、教科指導以外の教育活動(学級経営、進路指導、教育相談等)を実習します。児童生徒の状態を把握し、その課題解決を目指した具体かつ有効な支援方法を開発、検証します。

>> 教育実践研究テーマの例

学校マネジメント力開発プログラム

- 岩手県内小学校における地域連携の在り方についての一考察—学校と地域とをつなぐ地域学校協働活動推進員の役割を踏まえて—
- 「いわての復興教育」の再考—『警鐘・継承』の視点から—
- 教員の自律性や協働性等の育成による生徒の人間力向上を図るための学年運営の在り方—サーバント・リーダーシップ及び分散型リーダーシップの実践を通して—

子ども支援力開発プログラム*

- 帰りの会でのグループワーク継続実施が学校適応感に及ぼす効果の検討

授業力開発プログラム

- 小学校国語科における「協働的な対話」による思考の再構築に関する研究
- 小学校社会科における事前学習の実践と一人一台端末活用の教育効果
- 3次元CADを用いた“材料と加工の技術”における材料の構造理解への効果

特別支援教育力開発プログラム

- 聴覚特別支援学校における自己肯定感を高める自立活動の指導の充実に向けて—ソーシャルサポート認知と安全統制感の視点から—

修了生の動向

修了生インタビュー



一関市立巖美中学校 副校長 鈴木智行

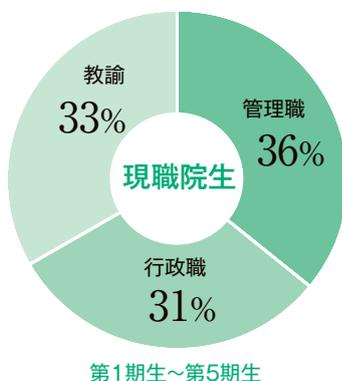
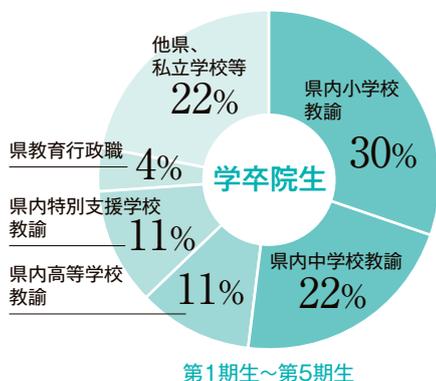
4月から、一関市立巖美中学校に勤務しております。巖美中学校は一関市の西に位置し、古くから景勝地として親しまれる名勝「巖美溪」や中世の風景が現存する「骨寺村荘園遺跡」など貴重な歴史遺産や自然に囲まれた中学校です。中学校に勤務するのは教員人生で初めての経験であり、副校長としての校務や特別支援学級での授業など毎日が新しい発見と学びにあふれています。教職大学院において、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の様々な校種の同期と日々意見交流できたこと、経験豊かな教授陣に講義を通して教えていただいたこと、専門実習での学び等、全てが今の自分を支えています。2年間、教職大学院で学んだことを還元できるよう、今後も人とかかわりやつながりを大切に、学び続けていきます。



九戸村立伊保内小学校 教諭 古谷京香

4月から、晴れて教師の道に進むことができ、忙しくも充実した日々を過ごしています。大学院から教育現場へ環境はがらりと変わりましたが、「子ども全員にとって、心の居場所となるような学級を」という思いは、変わらずもち続けています。また、2年間の講義や実習、研究で培った粘り強さや向上心は、日々の授業実践や学級経営を支える柱となっています。もちろんうまくいかないことだらけですが、周りの先生方の助けを借りながら、教師として少しずつ成長できていると感じています。一人で悩むのではなく、周りの人を頼ること。当たり前のことにも思えますが、このことこそが、私が大学院で得た最大の知見です。これからも大学院における学びを生かしながら、子どもとともに、一歩ずつ歩んで参ります。

修了生進路 (令和5年4月現在)



学卒院生

第6期生

- 盛岡市立城南小学校教諭
- 滝沢市立鶴飼小学校教諭
- 九戸村立伊保内小学校教諭
- 島根県松江市立佐太小学校教諭
- 一関市立千厩中学校教諭
- 仙台市立根白石中学校教諭
- 岩手県立花巻南高等学校教諭
- 岩手県教育委員会学校教育室主事
- 民間企業

現職院生

第6期生

- 盛岡市立緑が丘小学校教諭
- 山田町立山田小学校主幹教諭
- 久慈市立久慈小学校主幹教諭
- 一関市立巖美中学校副校長
- 宮古市立第一中学校副校長
- 洋野町立種市中学校副校長
- 岩手県立花泉高等学校副校長
- 岩手県立前沢明峰支援学校副校長

在籍者数

(令和5年4月現在)

入学年度	プログラム	学卒院生	現職院生	合計
令和4年度	学校マネジメント力開発	3	3	3
	授業力開発	4	3	7
	子ども支援力開発	0	1	1
	特別支援教育力開発	1	1	2
	小計	5	8	13
令和5年度	学校マネジメント力開発	3	3	3
	授業力開発	7	3	10
	子ども支援力開発	0	1	1
	特別支援教育力開発	1	1	2
	小計	8	8	16
合計		13	16	29

※令和6年度から子ども支援力開発プログラムは授業力開発プログラムに統合

専任教員

(令和5年4月現在)

研究者教員

- 田代 高章
- 立花 正男
- 山本 奨
- 土屋 直人
- 佐合 智弘
- 佐々木 全
- 高田 麻美

実務家教員

- 佐藤 進
- 川上 圭一
- 田村 忠
- 佐藤 信
- 紺野 好弘
- 中村 宗宏
- 菊池 新司

>> 学修支援Q&A

Q1 どんな施設で学修するのですか？

教職大学院棟という教職大学院専用の施設があります。この中の「院生室」では、一人一台のパソコンが貸与、無線LANが完備されています。「演習室」では、電子黒板等のICT機器が配備され、いつでも利活用できます。

Q2 教員採用試験での特例措置とは、どのようなものですか？

岩手県の教員採用試験に合格した上で、教職大学院に進学した学卒院生は、大学院修了までの期間、名簿登載期間を延長することができます(最大2年間)。なお、合格した出願区分の学校・教科等の専修免許を取得することが条件です。

Q3 奨学金制度はありますか？

学卒院生を対象とした本学教職大学院独自の貸与制度があります。岩手県の教員に採用され、5年間勤務すれば貸与された奨学金は返還免除となります。

Q4 授業の特色にはどのようなことがありますか？

「理論と実践の融合」を目指し、理論面を研究者教員が、実践面を実務家教員がそれぞれ担当します。多くの授業は、研究者教員と実務家教員のチームティーチングで、演習を重視して実施します。また、授業や専門実習では、現職院生と学卒院生が協働・交流し、学び合います。

Q5 どのような指導体制ですか？

各プログラムを専門とする研究者教員7名と、小・中・高・特支学校の校長等の実務経験のある実務家教員7名が中心となり指導します。また、これに加えて教育学部所属の20名をこえる研究者教員が学修をサポートします。

Q6 教育実践研究報告書とは何ですか？

院生個人が、学校現場に貢献する教育実践のテーマを定め、その実践を理論的に検討し、報告書として作成します。その内容に応じて、研究者教員と実務家教員がチームでサポートします。

Q7 学卒院生が修了後に教員になったとき、初任者研修はどうなりますか？

岩手県内の公立学校では、教職大学院での学修内容が考慮されるため、校内の初任者研修150時間が、75時間に軽減されます。

Q8 学卒院生が修了後に教員になったとき、初任給はどうなりますか？

「教職修士(専門職)」に対する優遇がなされています。具体的には、岩手県採用の初任給は、学部卒業者が220,068円ですが、大学院・教職大学院修了者は、242,204円です。(令和6年度岩手県公立学校教員採用候補者選考試験実施要項による)

Q9 修了後、教職大学院とのかかわりはありますか？

教職大学院の同窓会があり、親睦を深めたり実践研究を交流したりします。また、教職大学院と連携・協働して、教育実践研究や職務に取り組む修了生もいます。

教職大学院棟



交通案内(盛岡駅から)

■バス利用

盛岡駅前東口バスターミナル11番のりば

岩手県交通バス 駅上田線
乗車-「松園バスターミナル行き」
下車-「岩手大前」

岩手県交通バス 駅桜台団地線
乗車-「桜台団地行き」
下車-「岩手大前」

■タクシー利用 盛岡駅から約2km 約10分

■徒歩 盛岡駅から約25分



岩手大学 教職大学院



〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号
TEL.019-621-6840 FAX.019-621-6841
E-mail emaster@iwate-u.ac.jp
URL <https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

岩手大学 教育学部

TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail edujim@iwate-u.ac.jp



この冊子は環境に配慮した用紙を使用しています。